人口減少社会対策特別委員会 政策提言案について

令和５年１２月１日
ストラットン恵美子

『上越市内の産業を支える各業種業態分野の企業や個人へ“人口減少社会”課題に対応した技術、製品などを提案するビジネスプラン発表会の実施とイノベーション基金の創設』

既に迎えている人口減少社会において、高齢化、担い手不足、労働力減少といった声はあらゆる業種業態からも聞かれる共通した課題に思う。
未来に対する不安から新たな創造が起きにくく投資もしにくい時代である。
この課題を持ってする社会において私たちがどう向き合い、地域をどう支えていくのかは未知の領域であり、本来は行政がしっかりとしたインフラを整えながら、企業や市民が主役となって輝ける土壌を整え、民間活力を十分発揮できる街づくりが理想である。しかしながら、必要な行政サービスも民間活力に頼らざるを得ない点もある。
官民連携で当市をより盛り上げていくことが重要である。
行政内だけで検討し実施するのではなく、民間企業や個人で取り組む叡智をリスペクトし、人口減少社会に即したビジネスプランや製品、サービスが自分たち自身の生活を維持し、これからを支えていく大きな武器にしていくことこそ重要である。
この時代だからこその新しい目線、または持続可能なビジネスに私たち行政がしっかりと目を向け、それらの芽にどう着目し、伸ばし、活かしていけるのか地域をどう切り持っていくのかを連携しながらチャレンジしていく必要がある。
農業は、上越市の基幹産業でもあるが、これから益々期待される林業、製造業、建設業界など、ありとあらゆる分野が上越市を支える大事な産業であり、また、人口減少課題はこれら業界全てに大きく重くのしかかる。
こうしたこれからを見据えた大事なイノベーションに果敢にチャレンジする企業や個人のビジネスプランや製品、サービスは、直接または間接的にも確実に市民の生活にとって有益であるものを主眼に、市として支えていくこと、活用していくことが必要であると考える。
そこで真剣に人口減少社会に呼応した取り組みをする企業または個人のビジネス、製品やサービスについて「人口減少社会に即したイノベーション発表会」の実施と、そのビジネス、製品やサービスを上越市の事業として受け入れる、または委託して予算をつけるなど優勝者に対しての基金創設を提案してはどうか。

『女性活躍の拠点施設設置と女性人材育成支援の特化』

上越市の人口減少課題の要因の一つ「若年層の女性流出」がある。
例えば県外へ進学をしたとしても、女性がここに戻り、輝ける土壌を整える必要があると考える。さらに、ワークライフバランスを整える仕組みづくり、特に「出産」を経験できる女性にとって、ジェンダーギャップなど女性としての生きづらさを感じることなく、人生のどのステージにおいても輝ける、楽しめる環境づくりが必要である。
実際に就業できる業種業態が少なく、福祉やサービス業に偏っていたり、賃金格差、また役職においても圧倒的に女性層が少ないのが上越市の現状として伺える。
また、地方では、未だ家事・育児が女性のものであるといった固定観念があり、これは男性だけによるものではなく、女性自身のアンコンシャスバイアスが働いている点も否めない。「個」として輝けるローモデルを見せること、自己肯定感を高めることもまた重要である。福祉分野においても、DX 化の波によってどんなに能力があっても仕事量の差が出たり、辞職を検討するケースも多いと聞く。
人生のあらゆるステージを迎える全ての女性たちへ、リスキリングの視点だけでなく、就業ではなく創業起業する女性たちへの職業支援に力を入れることで、新たな仕事を生み出し、所得向上や経済的自立に向けた支援ができる。
また、子育て中であっても自身のスキルアップや同じく仕事を持ちながらの両立ができる支援を本格的にできれば、出生数も上げていけるとも考える。
男女共同参画の視点からも、「女性が輝ける街」といったトレンドを創り出すことが必要である。
洗練された都会の格好良さ、憧れに似たような感覚で、上越市という自然豊かな土地で自信が主役になれる、自ら創り出せるという自己実現を提唱できる仕組みづくり、または環境づくりを積極的に構想し進めていくことで上越市版ローモデルを作り出し、女性たちの自己肯定感を高め自信に繋げていくことができ、それが派生することは地域の活性化にも繋げられる。
市では、女性起業に関する相談支援などに乗り出しているが、さらに深めて、リスキリングできる職業訓練及びジョブマッチングなど、女性が憧れとする女性起業家を講師に招くなど、都会と地方を感じさせず学べる場所、またそのスキルを活かせる業種へ繋げること、起業も含めてチャレンジできる場が必要である。
さらに、起業を望む女性たちの最初のステップとして金融機関の参入や起業場所を提供することで、創業起業のハードルを下げることもできる。女性が働きやすく、また女性がお客様としても来やすいオシャレな空間施設を準備し、チャンスが得られるような場所を提供することで、市が本気で「女性が輝ける街」づくりを進めていることを提唱できる。
さらに、育児中のママたちでも安心して自分の仕事に専念できるように託児所の設置

または保育園等が隣接しているような立地条件、女性の心と体や、必要な相談支援ができる、女性のウェルフェアを備えているなど、女性が働く上でも子育てする上でも自分自身を磨く上でも痒いところに手が届くようなサービスが全て揃う夢のような施設は、女性が働きたくなる一つのトレンドになると考えるがどうか。

『中山間地域からの通学支援と上越市に残る若年層を支える仕組み』

現在、高校は直江津、高田に集中しており、それ以外の地域から通う学生を持つ世帯にとって電車やバスの定期代といった固定の必要経費が上乗せされる。また保護者の負担だけでなく、生徒たちにとっても通学時間は場所に比例して奪われる。
通学時間に関してはどう解決できるかそれぞれの家庭環境などにおいても違って現段階では致し方ないとしても、中心市街地以外に住む人口減を鑑みても、こうした通学支援に関し、スクールバスの必要性あるいは定期代補助といった点など、少しでも経済的負担を緩和する策は必要と考えるがどうか。

また、高校卒業と同時に、進学等で県外に若者が流出する点については、個人の自由主義においてそれを止めることはできないと考えるが、自動的に市内に就職する一定層の若者たちにフォーカスしてはどうか。
地元で就職してくれたことへ上越市として感謝する給付を検討してはどうか。
関東圏に比べれば、地方では車社会であり、特にこの地域では冬場でスタッドレスが必要である。その点も考慮して、地元で就職すれば 5 万円、3 年後も継続し勤務していれば 5 万円といった給付があれば地元に残る若者たちにとっても生活に必要な経費の足しとして嬉しいことではないか。
また県外へ進学しても、就職を地元で決めて戻ってくれば 3 万円として U ターンする人たちへ上越市の感謝を示す印になるのではと考えるがどうか。

以上